

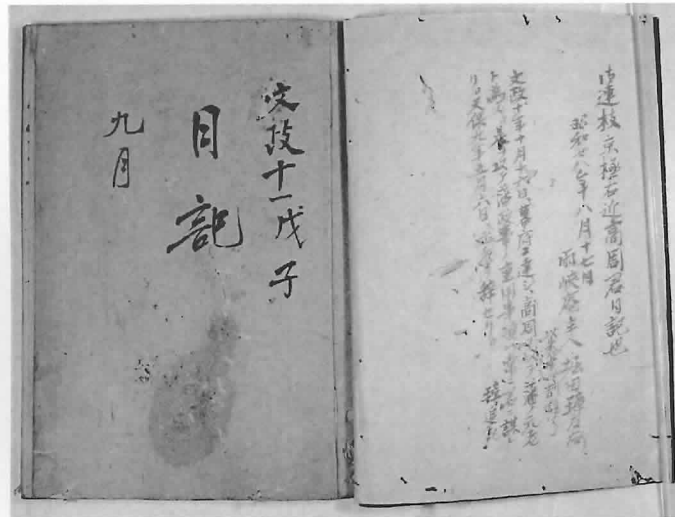
香川県立文書館史料集3

丸亀京極家御連枝日記

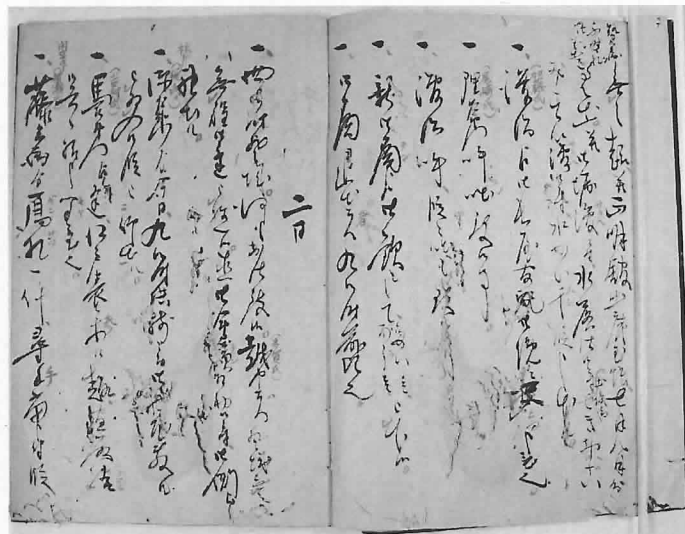
香川県立文書館



日記全体



日記見開き



日記本文

「丸亀京極家御連枝日記」 解題

一 経緯

本史料は白川武氏が収集した史料である。白川武氏は、元香川県文化財保護審議会委員を勤めるなど多度津町在住の眼科医を開業しながら多度津に関する歴史を研究した人物である。その御子息、白川琢磨氏から香川県立文書館に寄託された史料群の内の史料である。

二 註者堀田璋左右

本史料である日記の各始まり部分や一部奥書部分に堀田璋左右氏の記載があり、文中には、堀田氏による詳細な朱筆による訓註が加えられている。

堀田璋左右氏について、『続讃岐人名辞書』は、次のように説明している。抜粋して紹介する。

堀田璋左右（一八七一～一九五六）

歴史学者。国学院大学、東京帝国大学、早稲田大学教授。明治四年（一八七二）、丸亀藩士お馬廻役七十石堀田勝親の長男として丸亀に生まれる。明治三十一年（一八九八）東京帝国大学在学中、京極家編纂の「西讃府志」六十一巻を編集刊行、付録として、「生駒分限帳」「丸亀役列録」並びに京極高中藩主時代の「丸亀御家中分限帳」を併せ出版し、郷土史研究のための貴重な史料

を世に出した。

終戦後の、昭和二十一年（一九四六）郷里丸亀に帰り、昭和二十八年（一九五三）「丸亀市史」を編纂、昭和三十一年（一九五六）丸亀市文化財保護委員となる。昭和三十三年（一九五八）丸亀市の自宅にて没。八十七歳。

三 内容

本史料は、文政十一（一八二八）年九月から、部分的に、抜け落ちてはいるが、元治二（一八六五）年四月迄の江戸時代後半期の、西御屋敷と称された京極高周・高岑親子二代により記録された日記である。

京極高周と高岑親子は丸亀京極家の御連枝であり、元老として藩政の中枢部で政務を執っていた為、当時の丸亀藩の内部事情等を詳細に記載している。本史料中から例をあげると、安政六（一八五九）年三月四日の記録には、山北八幡神社蔵の「山北神社奉納京極侯参勤交代御船揃絵馬」にみられる、参勤交代の際に使用された丸亀藩の船である泰平丸が普請成就に付乗り初めとして、家老達と真嶋周辺を遊覧した事が書かれている。

また文久四／元治元（一八六四）年五・六月には長州藩から直書が到来した旨、さらに元治二年正月二十七日には、縁戚である阿波藩の蜂須賀山城が年始には長州征討の陣払し、帰国する知らせが土産とともに到来した事等、幕末の長州藩の動きとの関わり

が記載されている。

このように本史料中には幕末の丸亀藩の様相や社会情勢が記載されている。

丸亀藩の記録があまり残っていない中で、本史料の歴史的重
要性は非常に高いものと思われる。

四 日記筆者

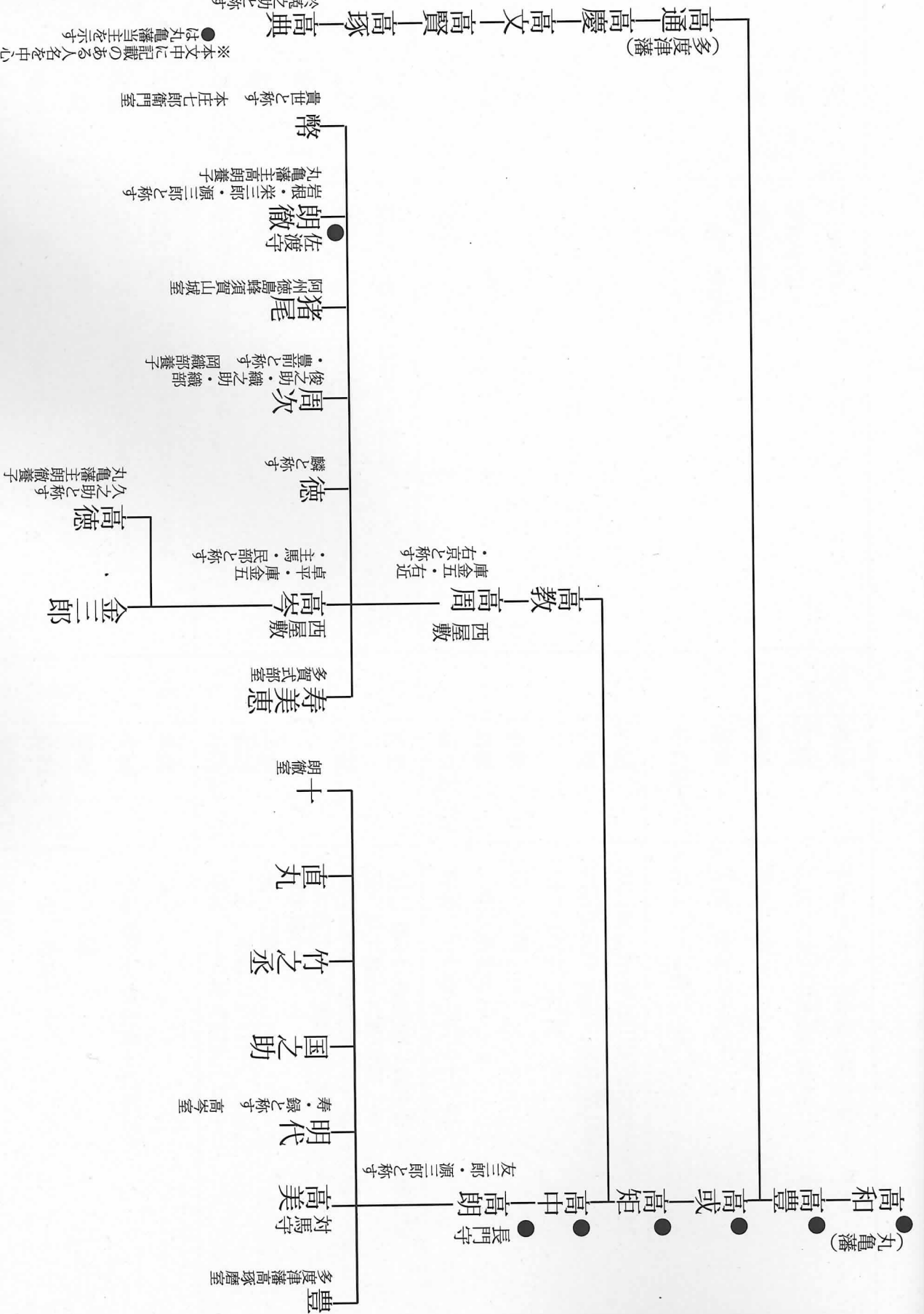
日記の記載者は堀田氏の注によると、

- ①高周の筆。
 - ②高周の事項ではあるが、高岑の代筆によるもの。
 - ③高周の実子である朗徹が宗家に養嗣となる顛末を何者かにより記載されているもの。
 - ④婦人の代筆と思われるもの。
 - ⑤高岑本人の筆。
- このように複数名により記載されていることがわかる。

五 謝意

本史料を出版するにあたり、史料所有者であり、当館寄託者である白川琢磨氏にはご快諾を賜った。また当館資料調査委員唐木裕志氏には、特別に御教示していただいた。記して感謝の意を表する。

京極家系図



(参考) 『丸龜京極家一名門大名の江戸時代』 図録 香川県立ミュージアム 『丸龜市史』 丸龜市